

### Ⅲ

## 英語教育研究グループ

「小・中連携を意識した新学習指導要領における英語教育の在り方について  
～英語でのやり取り・書くことを中心に～」

#### < 研究員 >

|                    |      |        |
|--------------------|------|--------|
| 佐井寺小学校             | 教諭   | 和志武 玲子 |
| 千里丘北小学校            | 指導教諭 | 佐野 彩子  |
| 南千里中学校             | 教諭   | 西滝 奈美  |
| 南千里中学校             | 教諭   | 岩田 将   |
| 豊津西中学校             | 指導教諭 | 吉田 昌司  |
| 千里みらい夢学園<br>竹見台中学校 | 教諭   | 松葉 陽子  |

#### < スーパーバイザー >

関西大学 教授 竹内 理

## 1. はじめに

令和2年度（2020年度）から新学習指導要領による小学校における外国語教育が実施されることに先駆け、本市では文部科学省の教育課程特例校制度の適用により、平成29年度（2017年度）から、すべての小学校において、小学校1年生からの英語教育に取り組んでいます。この取組を通して培われた子供たちの学びを、いかに次に繋げるかが、今後本市に求められる課題であると考えます。

本研究グループは、「小・中連携を意識した新学習指導要領における英語教育の在り方について」をメインテーマに、研究初年度である平成30年度（2018年度）は、＜英語でのやり取り・パフォーマンス評価・移行期教材の利用＞を中心に研究に取り組みました。2年目である今年度は、＜英語でのやり取り・書くこと＞を中心に実践を重ね、小学校から中学校へのスムーズな移行を目指した「小・中連携をみすえたガイドライン」の作成に取り組みました。スーパーバイザーである関西大学教授の竹内先生には、新学習指導要領移行への動きを中心とした国や府の動向や先進校（先進市）等の取組も踏まえ、本市の英語教育の充実に向けて、様々な御助言をいただきました。

## 2. 研究主題及び目的

### （1）令和元年度の研究主題

小・中連携を意識した新学習指導要領における英語教育の在り方について  
～英語でのやり取り・書くことを中心に～

小学校新学習指導要領解説（外国語活動・外国語編）では、小学校中学年から外国語活動を導入し、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視することとしています。また、「話すこと」については、[やり取り]と[発表]にさらに分かれており、中学校の外国語科における目標である「コミュニケーションを図る資質・能力」に向けた、小学校中学年では「素地」となる、小学校高学年では「基礎」となる資質・能力を確実に身に付けることができるよう、工夫する必要があります。これらを踏まえ、「話すこと [やり取り] 」と、高学年で初めて取り組む「書くこと」に主題を置き、研究に取り組みました。

### （2）研究目的

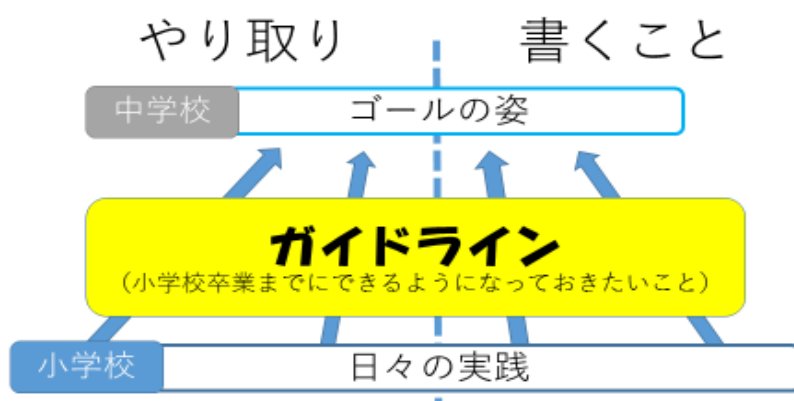
新学習指導要領でも指摘されているとおり、現行の外国語活動では、児童の学習意欲の向上といった成果が認められる一方、

- ・ 音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されて

いない。

- ・ 日本語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習において課題がある。
- ・ 高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められている。

などの課題があります。研究グループでは、昨年度の活動を生かしながら、日々の実践で課題に感じていること等を出し合い、以下のように、テーマに迫る取組をイメージしました。



小・中連携に必要なことは、それぞれの校種の教師が、お互いの取組をまずは知ることです。そして、小学校では、日々の実践が、中学校の「ゴールの姿」にどのように繋がっているのか、中学校では、そのために小学校で、何を目標にどのように実践に取り組んできたのかを知り、それぞれで見通しをもって指導できるようにすることです。

そこで、研究グループでは、小学校卒業までにできるようにしておきたいことを5領域ごとにまとめた、「小・中連携をみすえたガイドライン」を作成し、小学校段階から中学校段階への円滑な接続が達成されるよう、研究や実践に取り組みました。

### 3. 令和元年度 活動経過

★：竹内先生に来ていただいた日

| 回   | 月日    | 曜日 | 時間    | 竹内SV | 内容            |
|-----|-------|----|-------|------|---------------|
| 第1回 | 5月24日 | 金  | 16:30 |      | 委嘱            |
|     |       |    |       |      | 昨年度の振り返りと年間計画 |
| 第2回 | 6月20日 | 木  | 16:00 | ★    | 年間活動計画        |
|     |       |    |       |      | 2年目における研究の方向性 |
| 第3回 | 7月4日  | 木  | 16:00 |      | 2年目における研究の方向性 |
| 第4回 | 8月1日  | 木  | 14:00 | ★    | 研究テーマについて     |
|     |       |    |       |      | 取組の具体設定       |
| 第5回 | 9月12日 | 木  | 16:00 |      | 2学期の実践について    |

|      |        |   |       |   |                   |
|------|--------|---|-------|---|-------------------|
| 第6回  | 10月17日 | 木 | 16:00 | ★ | 2学期の実践について        |
| 第7回  | 11月21日 | 木 | 16:00 |   | 12月の研究授業に向けて      |
|      |        |   |       |   | 指導案検討             |
| 第8回  | 12月24日 | 火 | 14:00 | ★ | 研究報告会に向けて         |
|      |        |   |       |   | 1月の研究授業に向けて・指導案検討 |
| 第9回  | 1月9日   | 木 | 16:00 |   | 研究報告会に向けて         |
| 第10回 | 1月23日  | 木 | 16:00 |   | 研究報告会リハーサル        |

#### 【中学校英語教育研修】

令和元年12月5日（木）

公開授業・研究協議

授業者：豊津西中学校 指導教諭 吉田 昌司

指導助言：関西大学 教授 竹内 理

#### 【小学校英語教育研修】

令和2年1月16日（木）

公開授業・研究協議

授業者：千里丘北小学校 指導教諭 佐野 彩子

指導助言：関西大学 教授 竹内 理

## 4. 研究内容及び発信

### (1) 「小・中連携をみすえたガイドライン」について

「1. はじめに」や「2. 研究主題及び目的」で述べた通り、本市では、全小学校において、小学校1年生から、系統的に外国語活動に取り組んでいます。しかし、中学校へ進学した際、子供たちは以下のような変化に直面することになります。

#### ○学習時間が増える

平成30年度・令和元年度の5、6年生は、年間50時間の外国語活動。

→中学校では全学年 週4時間の外国語科。

#### ○学習量が増え、学習スピードが変わる

小学校では、想像や予想をして、英語で尋ねたり答えたりしてきた。

→中学校では、口頭での活動をしながら、あわせて読む・書く活動もしなければいけない。

#### ○評価の方法が変わる

小学校では、クラスメイトと協力して積極的に英語活動に取り組むことが大切で、児童の取組について先生達が“Good job!”とほめてくれたり、間違いがあっても“Nice try!”と認めてくれた。

→中学校では、個別のテストの点数が英語力を測るバロメーターとなり数字で評

価値が示され、卒業後の進路に直結する持ち点となる。

児童は、このような学習のギャップから、小学校で学んだことを発展的にうまく生かせず、小学校における外国語活動と、中学校における外国語科の円滑な接続が難しくなっている状況があると考えます。

そこで、研究グループでは、中学校への接続を図ることを重視し、以下のようにガイドラインを作成しました。

## 小・中連携をみすえたガイドライン

～卒業までにこんなことができたらいいな～

- |   |            |
|---|------------|
| ① 推測して聞く姿勢を持ち、5, 6文程度のまとまりのある英語の概要を聞きとることができる。  | 【聞く】       |
| ② 相手が言ったことを確認したり、分からないことについて尋ねたりできる。            | 【話す（やり取り）】 |
| ③ 聞き手を意識して、4文程度で自己紹介ができる。                       | 【話す（発表）】   |
| ④ 十分に慣れ親しんだ語彙や定型表現の英語を、必要に応じて視覚的な補助の下、読むことができる。 | 【読む】       |
| ⑤ 大文字、小文字アルファベットを4線上に正しく書き写すことができる。             | 【書く】       |
| ⑥ ヘボン式ローマ字で自分の名前が正しく書ける。                        | 【書く】       |

5領域における「書く」ことは、新学習指導要領での目標はあくまで「書き写す」ことであり、アルファベットの大文字・小文字を全て覚える必要はありません。しかし、研究グループでは、様々な実践を通して、中学校までに自分の名前を正しく書くことが必要であると考え、ガイドラインの6つ目に設定しています。

### (2) 小学校における実践

小学校では、「話すこと [やり取り]」における、「Small Talk」の実践と、「書くこと」における実践に取り組みました。

#### ア 「Small Talk」の実践

⇒参考資料①

Small Talk とは

2時間に1回程度、授業のはじめの帯活動で、あるテーマのもと指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝えあったりする活動。高学年から取り組む。

Small Talk の目的は2つあります。

一つは、既習表現を繰り返し使用できるようにすること。2つ目は、対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることです。

児童にとっては、自分に身近な内容を表現できるという良さもあります。中学校での、

即興的なやりとりや自分の考えを述べる discussion や debate にもつながっていきます。また、新学習指導要領における思考・判断・表現の部分につながるものです。

Small Talk の流れは、以下の順番で、繰り返し行います。

- ① 言葉を知る。(知識・理解) (input)
- ② 伝えたいことを考える。(思考・判断)
- ③ 話そうとする。(表現) (output)

最初は、一往復から始めます。その後少しずつやり取りを増やしていきます。

はじめは、“Hello. How are you?” “I’ m good.”  
次に “How was yesterday?” “It’ s good.” などの一言感想。

そして、“What did you do?” “I went to ~.”  
など伝えたい内容を伝える流れにしていきます。

テーマは季節や状況によってタイムリーなものに変更します。（“How was your winter vacation?” 等）

相手は、ほめ言葉を思い出しながらジェスチャーなども交えてコミュニケーションを図ります。相手の話に相づちをうったり、リアクションしながら質問を返す即興的なやり取りに取り組みます。

この活動で大切なことは、十分なインプットをしてから、アウトプットをさせることです。できなくて当たり前、忘れて当たり前という気持ちを教師が持ち、間違えてもいい授業づくり、そして児童の取り組もうとする態度や、できるようになったことを十分に褒めることがとても大切です。分からない表現が出たときは、「それって英語でなんて言うのだったかな?」と一緒に考えて答えさせるようにします。分からないことを聞くことで学びになったり、練習になるととらえます。

評価は、「取り組むこと」です。分からなくても、ジェスチャーや知っている言葉で補ったり、日本語で言ったり、質問することで学ぶからです。

これらの活動を、繰り返し取り組むことで、児童はコミュニケーション能力に自信を付け、中学校での活動にスムーズに移行できると考えます。

## イ 「書くこと」における実践

新学習指導要領における「書くこと」の目標と内容から、各学年において、次のように目標を設定し、実践に取り組みました。

### 5年生

- ① アルファベットの太文字・小文字を、活字体で書くことができる。
- ② 語句レベルで書き写す。

### 6年生

- ① センテンスレベルできれいに書き写す。
  - ・ 文の先頭は大文字
  - ・ 終止符(.)をつける

### Small talkの流れ

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| ● 始まり  | Hello. How are you?<br>I'm good. |
| ● テーマ  | How was ~?                       |
| ● 一言感想 | It's good.                       |
| ● 質問   | What did you do?                 |
| ● 答え   | I went to ~.                     |
| ● 終わり  | Thank you. See you.              |

- ・単語の間にはスペースを（子供の小指1本分）

5年生での実践では、アルファベットの語句指導と、書き写しに並行して取り組みました。アルファベットに関しては、大文字→小文字の順で指導をしますが、A～Zの順で指導する必要はありません。（下図参照）

書き写しについては、自分の名前や家族・友達・先生・自分の小学校・市の名前など、児童の身近なものを書くことができるよう取り組みました。また、その日に学んだ言葉の中で、一番好きな言葉を書いてみよう、ということにも取り組み、書くことに慣れることができるようにしました。

アルファベットの書き写しも、四線の上で書かせます。四線でできる間の3つのスペースを、上から2階、1階、地下と名付け、イメージを持ちやすくしました。

A→Zの順ではなく...

**【大文字】**

- ①左右対称の直線で書けるもの（A、H、I、M、Y、V、X、W、T）
- ②直線だけで書けるもの（F、N、L、K、E、Z）
- ③曲線を含むもの（G、D、B、O、J、C、P、S、Q、U、R）

**【小文字】**

- ①四線上の1階のみでおさまる、かつ、大文字と形が同じもの（c、o、s、v、w、x、z）
- ②四線上の1階のみにおさまるもの（a、e、u、m、n、r、i、t）
- ③四線上の2階に飛び出るもの（f、h、k、l）
- ④四線の地下1階に飛び出るもの（g、y、j）
- ⑤鏡文字（b、d、p、q）

アルファベットでの名前の表記は、これまで、英語圏に倣って、名前→姓の順でしたが、新しい教科書では、日本語の語順通りに表記するようになっています。

また、ローマ字は3年生でも学習しますが、訓令式であり、日本語をアルファベットで表記したものです。

外国語科で扱うローマ字は、外国の人たちが、固有名詞を正確に発音しやすくするために使うヘボン式ローマ字となっています。これらの違いに注意することも必要です。

**ローマ字について**

**【名前の書き順】**

新しい教科書の表記は、（姓→名）

Suita Taro

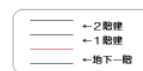
**【書き方のきまり】**

最初の文字は大文字

Suita Iaro

**【ヘボン式ローマ字】**

3年生で学習する訓令式は、日本語をアルファベットで表記したもの。ヘボン式ローマ字は、外国の人たちとのコミュニケーションで使う。固有名詞を外国の方が正確に発音しやすくするため。



**(3) 中学校での実践**

中学校では、「話すこと [やり取り]」に焦点を当て、より発展的な活動に取り組みました。

**ア 南千里中学校での実践**

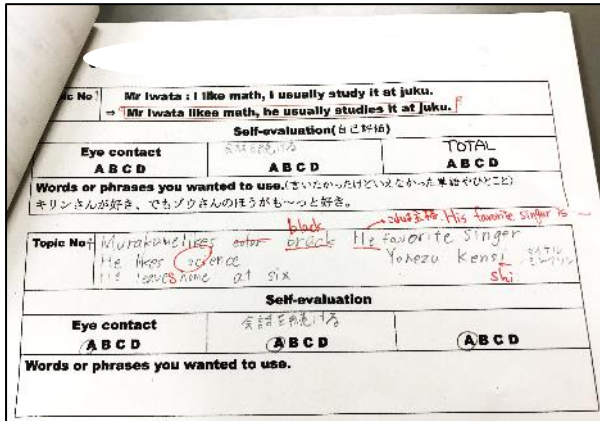
毎時間、5～10分のモジュール活動を設定し、中学1年生から3年生までの一貫した活動を通じて、系統的にコミュニケーション能力の育成に取り組みました。

各学年での活動内容等をまとめました。今年度は、1・2年生についての実践となっています。

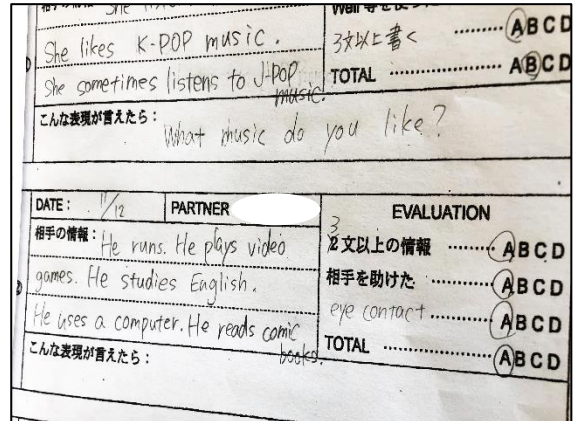
| 学年  | 活動内容   | 大切にしたこと等  |
|---|--|---|
| 1年生   | <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を用いた簡単なやり取りを毎時間行う。</li> <li>例) インタビュー形式のチャット</li> <li>慣れてきたころに、会話の内容を書く作業に移行する。</li> </ul>  | <p>インタラクティブな活動よりも、<u>より会話を継続させることに重点を置いた。</u></p> <p>生徒が慣れてきたころに、話す活動から聞いて書く活動へとシフトしていく。</p> <p>聞いて書くことで、振り返ることができ、また分からない表現については教師からフィードバックすることができる。(写真1)</p>                      |
| <p>三学期頃には、一文追加できるようにし、二年次のインタラクティブな活動へ移行するための素地を養う。</p> |  |   |
| 2年生   | <ul style="list-style-type: none"> <li>一年での取組を引き継ぎ、インタラクティブな活動へと本格的に移行。</li> <li>例) <ul style="list-style-type: none"> <li>*ペアでインタビューを行う。</li> <li>*ペアで1分間チャット(会話)を行う。(one minute chat)</li> <li>*聞き取った内容を書く。(なるべく多くの情報を書く、要約して書く、書いた内容をプレゼンする)</li> </ul> </li> </ul> | <p><u>即興性と、会話を途切れさせず持続できるコミュニケーション力を養うことを重視した。</u></p> <p>→ 1問1答だけでなく、1文追加したり、さらに会話を続けたり、応用を加える。</p> <p>→ 1分間、与えられたテーマに対して、会話を続ける。時間を少しずつ増やしていく。</p> <p>自己評価をし、振り返ることができる。(写真2)</p> |
| <p>コミュニケーション活動から、書く活動、読む活動につなげて、4技能のスキルアップをめざす。</p>     |  |   |
| 3年生   | <p>&lt;ゴールの姿&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見をまとめ、英語に直せる。</li> <li>自分の意見をしっかり伝え、相手にわかってもらうことができる。</li> <li>相手の意見を聞き、即興で意見や思いを伝えることができる。</li> <li>教科書の単語にとどまらず、活動に必要な単語や表現は幅広く習得して使えるようになる。</li> <li>様々な社会的事象について、自ら情報を</li> </ul>                  | <p>インタラクティブな活動から、<u>ディベートやディスカッションなどの活動へ、より活動の幅を広げることをめざした。</u></p>   |



集めて、英語で意見を交換することができる。



(写真 1)



(写真 2)

イ 豊津西中学校での実践

⇒参考資料②

豊津西中学校では、1年生において、「1 主体的・対話的で深い学びを実現するための手立て」、「2 即興性、やりとりの活動をどのように授業に反映させるか」の2点を研究主題に、研究授業を通した「やり取り」の実践に取り組みました。

授業の目標は、以下の通りです。

- ・助動詞の can を理解し、使えるようにする。
- ・質問をしたり相づちをうったりして、会話をできるかぎり続ける。

本時では、can を使って、どういうやりとりが続くかを考えるようにしました。

初めに、教科書にある①、②、③の対話を聞かせ、この後のやりとりができる限り続くようにペアで考えます。途中でいろいろな文例を見せた後、3ペアが合体して1グループになって、その中で一番評価の高い対話を、グループの代表として発表するようにしました。

Ex.1

① Can you play basketball?

② Yes, I can. I'm a member of a basketball team.

③ Really? What is your position?

この後どう続くかな…?

I only cheer our team.

研究協議では、「やり取り」について、様々な意見が交わされました。以下2点にまとめています。

- ① やり取りをする際は、たとえ読むだけであっても、「目と目を合わせる」ことが大切。
- ② めあてや達成目標（評価基準）を最初に伝えることは有効である。

特に、②については、生徒の活動がめあてからそれていたり、目標に到達しないと考えられる場合、途中で活動を止め、形成的評価を与えることも可能です。「やり取り」の活動だけでなく、どのような活動においても、生徒に、「何を身に付けさせる」のか、教師と生徒が共有することが大切になります。

## 5. おわりに

英語教育研究グループは、昨年度から、新学習指導要領を踏まえた英語教育の在り方について、様々な実践を通して取り組んできました。特に、全小学校が教育課程特例校である本市の特徴を踏まえ、小学校段階から中学校への円滑な接続を目指し、今年度はガイドラインを作成したことが大きな成果として挙げられます。

外国語教育における小・中連携で大切なことは、それぞれの教師がお互いの教育課程を理解し、9年間の姿をみすえた指導に共通して取り組むことです。研究グループでは、各校種の研究員が、互いの立場から意見を交わし、情報を交換し、子供たちが、より楽しく、より意欲的に外国語に取り組むためにはどうしたらいいかを考えてきました。この研究紀要には、その実践が多く詰め込まれています。これらの実践を十分に活用いただき、本市の外国語教育がより深く充実することを願っています。

# 外国語活動指導案

指導者 吹田市立千里丘北小学校

T1 佐野 彩子

T2 山下 雄大

## 1. 日時

令和2年(2020年)1月16日(木)

6時間目 14:35～15:20

## 2. 学年・学級

6年1組(23名)

## 3. 場所

吹田市立千里丘北小学校 6-1教室

## 4. 単元名

We can! 2 Unit8 What do you want to be?

## 5. 学習指導要領における領域別目標

|                |  |
|----------------|--|
| 聞くこと           | イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。                      |
| 話すこと<br>(やり取り) | イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。    |
| 話すこと<br>(発表)   | イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。                     |
| 書くこと           | イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。 |

## 6. 単元目標

| 知識及び技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度                            |
|---|---|--|
| 将来就きたい職業などについて、聞いたり言ったりすることができる。また、語と語の区切りに注意しながら慣れ親しんだ表現を書くことができる。 | 将来就きたい職業やしたいことを考え、その内容を表現できる。また、その理由について伝え合い、疑問に思ったことを質問することができる。 | 友達の発表に興味を持ち、聞き手を意識しながら、将来の夢について伝え合おうとする。 |

## 7. 言語材料

【表現】 What do you want to be? I want to be a ～. I like～. I can～. I am good at ～.

【語彙】 announcer, zoo keeper, baseball player, dancer, robot engineer, architect . . .

## 8. 学習計画

| 時         | 目標（●）と主な学習活動（・）  | 主な評価の観点  |
|-----------|--|--|
| 1         | <p>●世界の子供たちの夢について聞き、自分の将来の夢について考える。</p> <p>・ P.58,59 を見て、色々な職業があることを知る。</p> <p>・ 世界の子供たちの将来の夢について興味を持って聞く。</p> | <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>・ 海外の児童のことについて興味を持って聞こうとしているか。</p> <p>・ 色々な職業の言い方を知り、将来の夢について考えようとしているか。</p> |
| 2<br>(本時) | <p>●自分自身を振り返り、将来就きたい職業やしたいことの理由について考える。</p> <p>・ 映像を見て、登場人物の将来の夢を聞き、自分自身のことを考える。</p>                           | <p>【思考・判断・表現】</p> <p>・ 自分が伝えたい内容を身近な言葉で表現できているか。</p>   |
| 3         | <p>●「夢宣言」のスピーチ原稿を書き、将来の夢について理由も含め紹介する。</p> <p>・ 自分の夢やその理由を伝える英語の表現を知る。</p>                                     | <p>【思考・判断・表現】</p> <p>・ 前時までに学習した言葉を用いて、自分が就きたい職業やしたいこと、その理由を表現できているか。<br/>(ワークシート)</p>                 |
| 4         | <p>● 友達の夢宣言をグループで聞き、感想を言ったり、良いところを伝え合ったりする。</p> <p>・ 友達の感想や質問をもとに、スピーチの原稿をより良いものにする。</p>                       | <p>【知識及び技能】</p> <p>コミュニケーションのめあてに気を付けて伝え合っているか。また、質問や感想を言えているか。(行動観察・聞き手シート)</p>                       |
| 5         | <p>●友達の夢宣言を聞き、どのような職業に就きたいのか理解する。</p>  | <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>コミュニケーションのめあてに気を付けて伝え合っているか。<br/>(行動観察・振り返りカード)</p>                          |

## 9. 児童観

本校では、毎週火曜日を **English Day** として設定し、朝の時間に **English Time** として、全校で大阪府のオリジナル DVD 教材「**Dream**」に取り組んでいる。給食の時間には、AET の協力を得て、英語の本の読み聞かせを一斉放送で流し、放送委員会の放送を英語で行っている。また、毎年行われる千北マーケットでは英語の既習事項を生かしたお店づくりを行い、銀行業務を AET や保護者に担っていただいたりしながら、児童は実際に使える外国語活動に取り組んでいる。

本学級の児童は、明るく友達に対する思いやりもある。課題に対して、前向きな児童も多く、新しい内容にも抵抗なく取り組むことができる。しかし、丁寧に取り組んだり、向上心を持って取り組んだりする児童は少ない。学習の定着に個人差が大きく、既習の表現を身に着けている児童から、サポートが必要な児童まで様々である。意欲的に取り組む児童も多いが、全体での発表は自信がなく、進んで発表する児童は少ない。また、海外にルーツがある児童もおり、はじめはコミュニケーションが難しく、とまどいもあったが、ジェ

スチャーを使ったり、ポケトークなどのツールを使ったりしながら、次第にコミュニケーションがとれるようになってきた。少人数学級で育ってきた児童にとっては、言葉や文化的な違いを学び、視野を広げる良い機会となっている。

## 10.教材観

今回扱う教材は、6年生の卒業を前に将来の夢について考える教材である。

6年生は、臨海学習、水上大会、運動会、陸上大会、修学旅行、音楽会と大きな行事を終え、Unit7「My Best Memory」の単元では、自分の小学校生活の思い出についてパワーポイントを作って発表した。また、単元を入れ替えてUnit9「Junior High School Life」を扱い、自分自身について見つめ直し、好きなことや夢中になって取りこんでいることを振り返り、中学校で入りたいクラブについてグループで伝え合った。2学期の最後には、卒業に向けての文集づくりも始まり、自分の将来や夢について考える機会を持っているので、本単元はその延長線上にあり、児童にとっては英語で表現する必然性のある単元であるといえる。

また、本単元で扱う言語材料は現在よく知られており、We Can で扱っている職業 (artist, astronaut, baker, bus driver 等) に加え、児童にアンケートをとり、児童が表現したいものも扱う。また、なぜその仕事に就きたいのか理由を説明する表現は、I like～. I want to ～. I can～. I am good at～. など既習の表現を扱う。その他、動作、動詞の過去形 (went, ate, saw, enjoyed, was) 以外にも、状態・気持ちの言葉、教科、身の回りの物など、多岐にわたっている。また、単元の最後には、夢についてのスピーチをすることで、自分自身の将来について考えられる教材となっている。

## 11.指導観

学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと (発表) (やりとり)」「読むこと」「書くこと」の5領域が示されており、授業では、移行期の取り組みとして、「話すこと (やりとり)」に重点を置いて取り組んできた。昨年度より毎時間、授業のはじめに5分程度「やりとり」(small talk) の時間を設け、児童にとって身近な出来事を伝え合ってきた。Small talk の取り組みも2年目になり、さらに英語でのコミュニケーションを円滑にするために、「話を進めるための10のテクニック」として、「相手の言うことに興味を示そう」「あいづちには感情をこめよう」「思いやりをしめそう」などを使って、取り組んでいる。また、small talk でよく使う言葉や表現については、英語表現が定着しにくい児童にも助けになるように、small talk ヘルプカードを使っており、児童は絵や文字を助けにしながら日常の中で表現したいことを英語で伝え合っている。また、毎時間、smile, clear voice, eye contact, gesture, reaction, active listening のめあてを示している。We can でのリスニングの中に難しいものが多く含まれることから、active listening として“**One more time, please.**”なども使えるようにしてきた。授業においては、「分からなくて当たり前、できなくても大丈夫。いつでも質問できる。」ことを大切に、できたことをほめるようにしてきた。

本単元では、将来の夢やその理由について自分たちが表現したいことを、既習表現を思い出しながら表現させたいと考えている。まだ夢が決まっていない児童については、自分が興味のあることや好きなことをもとに、どのようなことに取り組んでいきたいのかを考えさせ、表現させる。本校では、外国語活動のまよめの活動として、夢宣言スピーチを卒業式で伝える時間を設定している。小学校生活で学習した表現をもとに、自分の夢やその理由を英語で伝える機会は、児童にとって貴重な機会になると考える。

小学校生活を思い出しながら、自分たちが表現したい思い出を、既習表現を思い出しながら英語で表現させたいと考えている。また、余裕のある児童や、どうしても伝えたいことのある児童には、“I ate～.” “I saw～.”など既習の表現を使って伝えたい内容を伝えることができると考えている。本単元のまとめにおいて、思い出をアルバムとして編集する際には、パソコンを利用することにした。個人差がある児童でも一人ひとりの活動時間が確保でき、全体で発表するときにも協力しやすいと考えたからである。

本時では、友達が将来就きたい職業の言葉を知り、誰がなりたい職業なのか考えさせ、活動に興味を持たせたい。また、聞き取りの活動では、ゴールであるスピーチを意識しながら取り組ませたい。個人では聞き取りが難しい児童には、ペアでの情報交換によって安心感を持たせたい。また、聞き取った内容をヒントに、発表で使えるような既習事項を思い出させる。活動によってスピーチへの見通しを持たせたい。

3時、4時の活動では、グループでの伝え合いを通して、さらにスピーチの内容や伝え方をよいものにしていきたい。また、友達同士でのアドバイスにより、発表の良いところを見つけ、伝え合うことで発表に自信を持たせたい。

まとめの活動の「夢宣言」では、発表の際に、clear voice や eye contact などコミュニケーションのめあてを大切にさせたい。卒業式の英語でのスピーチに取り組むことを通して、児童が自分自身の将来のことを考え、成長するための良い機会としたいと考えている。

## 12. 本時の目標

- ・自分自身のこれまでを振り返り、将来就きたい職業やしたいことの理由について考える。

## 13. 本時の学習計画

|    | 児童   | T1○ T2●  | 【評価】<br>・留意点                                     | 準備物                         |
|----|--|--|--|-----------------------------|
| 挨拶 | “Stand up, please.”<br>“Good afternoon.”<br>“How are you?”<br>“How is the weather?”<br>“What day is it today?”<br>“What’s the date today?”   | ○“I’m fine”.(hungry, tired).<br>○“It’s sunny.(cloudy, rainy).<br>○“It’s Wednesday.”<br>○“It’s December 16th.”<br>●児童が授業に向かう準備ができていないか確かめる。 | ・コミュニケーションのめあてを示しておく。                            |                             |
| 導入 | Small talk<br><br>めあてと授業の流れを示す。<br><br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             自分自身のこれまでを振り返り、将来就きたい職業やしたいことの理由について考える。           </div> 前時の復習 | ○今までに学習した言葉を思い出させる。<br><br>announcer, zoo keeper, baseball player, dancer, robot engineer, architect . . .                                 | 【思考・判断・表現】<br>コミュニケーションのめあてに気を付けて話せたか。<br>(行動観察) | Small talkヘルプカード<br><br>P.P |

|            |   |   |   |                             |
|------------|---|---|---|-----------------------------|
| <p>展開</p>  | <p>リパークロッシングゲーム</p> <p>夢を尋ねる表現を知る。</p> <p><b>What do you want to be?</b></p> <p><b>I want to be~?</b></p> <p><b>Whose dream?</b></p> <p>・誰の夢か予想する。</p> <p><b>Let's Watch and Think2</b></p> <p>・個人で聞き取る</p> <p>・ペアで確認</p> <p>・全体で確認</p> <p>自分自身について振り返り、将来就きたい職業やしたいことの理由について考える。</p> | <p>仕事の表現に慣れ親しむ</p> <p>担任に子どもの時、何になりたかったか尋ねる。</p> <p><b>What do you want to be?</b></p> <p><b>I want to be~?</b></p> <p>① 友達が就きたい仕事の言い方を知る。</p> <p>② 誰の夢か予想する。</p> <p>③ 友達に何になりたいたずねる。</p> <p>④ 予想といくつあっていたか確かめる。</p> <p>映像を見て、登場人物の将来の夢についてわかったことを表にかかせる。</p> | <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>・英語での表現が難しい児童を支援する。</p> <p>・表現をスピーチに生かすことをめあてに聞き取らせる。</p> | <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> |
| <p>まとめ</p> | <p>振り返りカードを書く</p>   |   | <p>・めあてに照らし合わせて振り返る。</p>  | <p>振り返りカード</p>              |

1. 日時 令和元年12月5日 木曜日 第6校時 (14:30~15:20)
2. 場所 中央棟3階 第1学年4組 教室
3. 学級・組 第1学年4組 (35名)
4. 単元名 NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1

## Lesson 7 Sports for Everyone ~canを使った表現~

### USE - Speak 会話を続けよう (質問する・相づちをうつ) P.94, 95

#### 5. 教材観

いろいろなスポーツについて関心を高め、障がい者向けのスポーツについて知り、健常者と障がい者との共生について考えることをテーマとしている。

最近では「障がい者スポーツ」を「アダプテッド・スポーツ (adapted sports)」と呼ばれることもある。これは障がい者や高齢者、子ども、女性などすべての人々を対象にするスポーツを指している。これまでの「障がい者のためのスポーツ」から「障がいがある人が主体となるスポーツ」という認識が尊重され始めている。

この単元の言語材料は「can」を導入している。小学校の英語の授業ですでに習っている文法事項ではあるが、さらに深い理解と定着を図るためにいろいろな活動に散り組んでいこうと考えている。「can」の持つ多彩な意味を理解しつつ、相手の言ったことに相づちをうつことや相手の言ったことを受けて質問をするなど、できる限り続けられる「やりとり」を中心に言語活動をしていきたい。

#### 6. 生徒観

全体的に活発な生徒はたくさんいるが、おとなしい生徒もいる。積極的な発言はあまりないが、発音や音読練習、ペアワークなど指示を出せばしっかりと取り組むことができる生徒はかなりいる。これまでに、スキットコンテストやALT教師との口頭面接、プレゼンテーションなどを実施してきたが、それぞれが努力し微量ではあるが成果をあげることができた。しかし、文法問題・英作文・簡単な英語のやりとりについてこれない生徒や学習意欲のあまりない生徒もいる。

また、50分という限られた授業時間の中で、生徒一人ひとりに個別の指導を行う時間を持つことは難しい。文法の解説や活動の手順の説明など一斉の指導がどうしても多くなりがちであり、英作文などの個別で学習に取り組む時間においても slow learner のケアで他の生徒のケアが不十分になってしまいかちである。チームティーチングや学習形態を工夫し、どの生徒も満足して学習に取り組めるようにしていかなければならない。英語科としては一人ひとりに分かりやすい授業を展開し、生徒が自信を持って英語学習に取り組み、積極的に発表できるようにすることが課題であると考えた。

#### 7. 指導観

本課では、canの基本的な意味や用法について理解した上で、自分ができることやできないことを表現させたい。そのために、スキットをつくり見せあうことによっていろいろな表現を知る活動を取り入れるなど、生徒同士で学び合う機会を増やし、生徒の学習意欲を喚起しながら生徒が積極的にコミュニケーションを図る活動を多く設定していきたい。また、4技能を活用する活動をバランス良く設定し、助動詞 can を軸として、4技能の総合的な育成を図りたい。

今回の指導の中心として、ただ英文を読むだけで対話を理解していくのではなく、生徒の想像力を引き出すために効果的に絵やイラストを使って、内容理解のヒントを提示し、一人だけで考えるのではなく、ペア・グループ単位でお互いの意見を出し合い、いろいろな考え方があっても理解させていきたい。

#### 8. 単元の目標

- ① いろいろなスポーツについて関心を高める。
- ② 助動詞 can を理解し、使うことができる。
- ③ スポーツ紹介の説明文を読むことができる。
- ④ 助動詞 can を含む文を使って、質問したり、相づちをうったりしながら、会話を続けることができる。



9. 単元の評価規準

| コミュニケーションへの関<br>心・意欲・態度 (A)   | 表現の能力 (B)   | 理解の能力 (C)   | 言語や文化についての<br>知識・理解・技能 (D)                                    |
|---|---|---|---|
| ① ペアやグループでの<br>言語活動に積極的に取り<br>組んでいる。<br>② 間違ふことを恐れず、積<br>極的に会話を続けよう<br>としている。 | ① 助動詞 can を用いて、<br>「できること」や「できな<br>いこと」を相手に伝えたり、<br>たずねたりすることができる。<br>② 適切な質問や相づちを<br>うつことができる。 | ① 本文の内容を聞いたり<br>読んだりして理解すること<br>ができる。<br>② 雑誌の記事を読んで、そ<br>の概要を読み取ることがで<br>きる。 | ① 助動詞 can の用法を正<br>しく理解している。<br>② 助動詞 can に関する知識を<br>身につけている。 |

10. 単元の指導計画 (全9時間)

| 時 | めあてと学習内容   | 評価基準   |
|---|--|--|
| 1 | 助動詞canの肯定文の導入<br>・自分や友達ができることを伝え合う。<br>・友達ができることを他の友達に伝える。   | ☆自分や友達ができること、できないことについて、積極的に伝え合おうとしている。(態度)<br>☆自分や友達ができること、できないことを伝え合うことができる。(思・判・表)                |
| 2 | 助動詞canの質問文、応答文と否定文の導入<br>・相手のできることを質問したり、質問に適切に回答したりする。<br>・相手ができることやできないことに関する情報を集める。                         | ☆自分や友達ができること、できないことについて、積極的に伝えたり質問したりしようとしている。(態度)<br>☆自分や友達ができること、できないことを伝えたり、質問したりすることができる。(思・判・表) |
| 3 | ○教科書本文 (Get Part①)<br>・Paulの兄Bobがやっているスポーツについて理解する。<br>・助動詞 can を用いた文を読んで、Bob がどんな人物かを理解する。また、Bob に関する情報を伝え合う。 | 車椅子バスケットボールについての文章を読んで、概要が理解できる。(知・技)  |
| 4 | ○教科書本文 (Get Part ②)<br>・Kumi と Bob の会話の内容を理解する。  | 車椅子バスケットボールについての文章を読んで、概要が理解できる。(知・技)  |
| 5 | ○USE Read①<br>・車椅子バスケットボールとゴールボールに関する英文を読んで、2つのスポーツのおおまかなルールを理解する。   | ☆車椅子バスケットボールについての文章を読んで、概要が理解できる。(知・技)<br>☆障がい者スポーツの種類やルール、携わる人々の思いに関心を持ち、身近なこととして考える。(態度)           |
| 6 | ○USE Read②<br>・車椅子バスケットボールとゴールボールについての英文を、文法や新出表現の意味を意識しながら、細かい内容を理解する。<br>・相手に内容が伝わるように、工夫しながら音読をする。          | ☆2つのスポーツに関する英文を読んで、細かい内容が理解できる。(知・技)<br>☆音のつながりや抑揚を意識しながら、英語らしく声に出して読むことができる。(知・技)                   |
| 7 | ○USE Read③<br>・2020年の東京パラリンピックで実施が予定されている競技を調べ、自分が興味のあるスポーツのルールを調べ、まとめる。                                       | 障害者スポーツのルールを意欲的に調べ、まとめようとしている。(態度)   |
| 8 | ○USE Read④<br>・自分が選んだパラリンピック競技のルールをまとめ、書いて表現する。  | 読み手を意識しながら、調べた障害者スポーツのルールを英語で書くことができる。(思・判・表)  |
| 9 | ○USE Speak (本時)<br>・相づちの打ち方や、会話のつなげ方を練習する。   | 会話の中で、相手の発言に対して適切に相づちを打ったり、発言を追加したりしてコミュニケーションを続けることができる。(思・判・表)                                     |

11. 本時の目標（第9校時）

- 助動詞の can を理解し、使えるようにする。
- 質問をしたり相づちをうったりして、会話をできるかぎり続ける。

12. 本時の展開

| 活動   | 生徒の活動  | 指導者の働きかけ・留意点  |
|--|--|---|
| 1. 導入(5 min.)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• あいさつ               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 本日の曜日</li> <li>② 日付</li> <li>③ 天候 等に関する質問に答える。</li> </ul> </li> <li>• 本日の授業の流れの説明を聞く。</li> </ul>  | Criss Cross Game 形式で<br><br>板書（英語）  |
| 2. 展開1(10 min.)<br><br>Speaking activity<br><br>活動 A→<br><br><br><br><br><br><br><br>活動 B→ | <ul style="list-style-type: none"> <li>• OHP を使って全員で speaking 活動を行う。</li> </ul>  <p>A: Here you are.<br/>Please drink some water.<br/>B: It's very hot.<br/>Thank you very much.</p>    | パワーポイントを使って、デモを聞いて見て、コーラスからペアの活動につなげていく。<br><br>活動 A<br>コーラスで練習してペアで練習<br><br><br><br>活動 B<br>絵の内容を英語で説明<br>ペアで活動後ボランティアで発表 |
| 3 展開2(12 min.)<br><br>本時のめあてを確認する<br><br>対話例を聞きそれに続くやりとりを考える                               | ワークシートを使って、今日習うことの説明を聞きながら確認する。<br><br>Ex.1 A: Can you play basketball?<br>B: Yes, I can. I'm a member of a basketball team.<br>A: Really? What is your position?<br><br>Ex.2 A: Can you cook?<br>B: Yes, I can. I can cook curry.<br>B: Cool! I like curry.<br><br>Ex.3 A: What movie do you like?<br>B: I like Harry Potter. It's exciting.<br>B: I see. How about Toy Story?  | 「めあて」は日本語で板書<br><br>対話例を3つあげ、意味を確認しながら練習し、ペアになってそれぞれその後続く対話を考えさせる。  |

|                                  |  |   |
|----------------------------------|--|---|
| <p>4. 対話づくりと発表<br/>(20 min.)</p> | <p>それぞれの後続く対話例を聞いて参考にする。</p> <p>Ex.1 A: Can you play basketball?<br/>B: <b>No, I can't. But I can play soccer.</b><br/>A: Really? What is your position?<br/>B: <b>I am a forward player.</b><br/>A: <b>Oh, I see.</b></p> <p>Ex.2 A: Can you cook?<br/>B: <b>Yes, I can. I can cook okonomiyaki.</b><br/>A: <b>Great! I like okonomiyaki.</b><br/>B: <b>Can I cook for you next weekend?</b><br/>A: <b>Yes, please.</b></p> <p>Ex.3 A: What movie do you like?<br/>B: I like Harry Potter. It's exciting.<br/>A: I see. How about Toy Story?<br/>B: <b>I don't like it. How about you?</b><br/>A: <b>Not yet.</b></p> | <p>表現の方法が分からないペアにアドバイスをする。</p> <p>P.94 の Idea Box や P.95 の Tips for Communication を参考にしながら、オリジナルの対話文を作成できるようにさせる。</p> <p>35名クラス中ペアで17組を全部発表させたいが、時間がないので、3ペアが1つのグループになり、その中で一番評価が高いものを代表で発表させる。</p> |
| <p>5. 振り返り<br/>(3 min.)</p>      | <p>本日習ったことの確認と<br/>授業全体のフィードバック</p>  | <p>ワークシート使用</p>   |

ヨ コ タ テ タテ  
Rows and columns( file ) ( Criss Cross Game )

1. What day of the week is it today?
2. What's the date today?
3. How is the weather today?
4. Are you from India?
5. Are you a student?
6. Do you play tennis?
7. Do you play the piano?
8. Do you study English?
9. Do you have any brothers or sisters?
10. Do you have any pets?
11. Do you walk to school?
12. Do you eat dinner at 7:00?
13. Do you live in Suita?
14. Do you drive a car?
15. Do you know Yang Meiling?
16. Do you know Raj Shukla?
17. Do you have a snack every day?
18. Do you clean your classroom today?
19. Do you get up at six every morning?
20. Do you go to bed at nine?

SEC1 Class ( ) No. ( ) Name ( )

# 会話を続けよう

☆3つの会話をモデルとして、できるだけ長い会話文をつくってみよう。

## Original Skit



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



スピーキング力向上ツール（テスト形式）判断基準表

|   | パートA   | パートB   | パートC                                       |  | パートD                                   |  |      |
|---|--|--|--|--|--|--|------|
|   | 発音・流暢さ   | 解答の正しさ   | 内容伝達                                       | 語彙・文法  | 内容伝達                                   | 語彙・文法  |      |
| 3 | 発音や音の連結、基本的な強勢などが適切で、無理なく自然な速さで話すことができる                              | 質問された内容に対して、文法事項を適切に用いて、文章で正しい解答をすることができる      | 各コマに関する話の内容にまとまりがあり、状況を正確に伝えることができる        | 既習の語彙や文法事項を適切に用いることができる                                  | 内容にまとまりがある複数の正確な文章で、自分の考えを適切に伝えることができる | 既習の語彙や文法事項を適切に用いることができる                                  |      |
| 2 | 発音や音の連結、基本的な強勢などに一部聞き取りにくいものがあるが、コミュニケーションのうえで不都合は生じない               | 質問された内容に対して、文法事項に若干の誤りはあるものの、文章で正しい解答をすることができる | 各コマに関する話の内容に概ねまとまりがあり、状況を伝えることができる         | 語彙の使用の不適切さや、文法の若干の誤りはあるものの、コミュニケーションのうえで不都合は生じない         | 内容にまとまりがある複数の文章で、自分の考えを概ね伝えることができる     | 語彙の使用の不適切さや、文法の若干の誤りはあるものの、コミュニケーションのうえで不都合は生じない         |      |
| 1 | 発音や音の連結、基本的な強勢などに不適切さがあり、コミュニケーションのうえで不都合が生じる可能性があるが、英語を使おうとすることができる | 単語だけではあるが、正しい解答をすることができる                       | 話しのまとまりは不十分だが、知っている単語を用いて、各コマを説明しようとする可以尝试 | 語彙や文法に不適切さがあり、コミュニケーションのうえで誤解が生じるおそれがあるが、英語を使おうとすることができる | 知っている単語を用いて、自分の考えを伝えようとする可以尝试          | 語彙や文法に不適切さがあり、コミュニケーションのうえで誤解が生じるおそれがあるが、英語を使おうとすることができる |      |
| 0 | 回答することができない  | 正しい解答をすることができない                                | 回答することができない                                | 回答することができない  | 回答することができない                            | 回答することができない  | 合計   |
| 計 | / 3  | / 3  | / 3  | / 3  | / 3                                    | / 3  | / 18 |

※判断基準「2」を概ね達成すべきめやすとしています。

Sec1 class( ) No.( ) name( )

【振り返り】

この授業に関して、当てはまるものに○をつけてください。

- 1： そう思わない      2： どちらかといえばそう思わない      3： どちらともいえない  
4： どちらかといえばそう思う      5： そう思う

|   |  |   |   |   |   |   |
|---|--|---|---|---|---|---|
| 1 | 授業に興味・関心・意欲をもって取り組んだ   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | 授業の内容は理解できた (can の意味・使い方)                                    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 | 授業を経てこの科目が好きになった   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 | 今日の授業スタイルは自分に合っていると思う  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5 | この授業は「安心して学べる場」であると思う  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 授業で他の生徒のために時間を使うことがあった                                       | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7 | 他の生徒との話し合いの中で、教えてもらって理解が深まり、<br>また理解したことを説明することで理解が深まることがあった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8 | 「与えられるのを待つ」だけでなく、「自ら求めて動く」ような<br>主体的な姿勢を意識した                 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9 | 「与えられるのを待つ」だけでなく、「自ら求めて動く」ような<br>主体的な姿勢が身についた                | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Total  /45 points

今日の授業で得たことと感じたことを書きましょう。